

⑥ 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例) 福岡女子大学

専門教育も含めて、大学の4年間の学習を、女子高度教養教育として構築する改革の中で、女子学生の「キャリア(人生)形成」と「男女共同参画社会の実現」を目指す取組を行っている。

具体的には、社会の中で女性が置かれている状況の理解のための授業や、女性の多様なキャリアを意識させるための授業科目(「女性学・ジェンダー論」等)を開設する取組を行っているほか、現代社会で活躍する女性に求められる基礎力を養成する女子専門の高等教育機関として、女子学生のキャリア意識・ジェンダー意識の向上、知的実践能力の向上、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す「女子高度教養教育」の実現を図るなど、社会人・職業人としての自立に向けた能力育成を重視し、大学教育の中に位置付ける取組を行っている。

男女共同参画社会をめざすキャリア教育

福女CEプログラム



福岡女子大学の特色

- ①あらゆる機会を捉えてキャリア教育を行う。
- ②学問キャリア導入教育と職業キャリア導入教育を学生教育の両輪とする。
- ③読み書き討論能力を重視し養成する。

<具体的な取組例>

職業キャリア導入教育科目の「人生・職業・社会」、「キャリアデザイン」において、授業方法を工夫し、学生の意識と能力の向上に努めている。

「人生・職業・社会 I・II」(1年次前期・後期)

人生・職業・社会の現実を知ること及びそれに自分がかどう関わっていかを考えることを目的とした授業。
予めウェブ上の講義ビデオの内容に関する400字の作文を書いて授業に臨み、授業では各自の作文を基に、3人組での討論(三角(参画)討論)及び全体討論を行う。

「キャリア・デザイン I・II」(2年次前期・後期)

ゲストスピーカーとして前期は卒業生、後期は卒業生に限らず社会で活躍する女性を講師として招き、講師からの講話及び学生と講師との対話を行う。教員は授業のコーディネーター役として参加する。対話後に学生は講師への「お礼の手紙」を書く。

⑦ 後期中等教育と高等教育の連携

高等教育機関が有するリソースを活用して、後期中等教育の充実に資する取組や、高等学校が専修学校と連携して効果的なキャリア教育を促進する取組。

(例)関西大学

キャリア教育の取組は大学においてのみ行われるものではなく、小学校時代から発達段階に応じて取組を積み重ねることが必要という認識の下、キャリア教育の観点から初等中等教育と高等教育との連携を促進する取組を行っている。

具体的には、大阪府教育委員会、大阪府教育委員会と連携し、小・中・高等学校教員を対象とした「キャリア教育入門ーキャリアカウンセリング研修ー」を平成17年度から開催している。

研修の対象を教員とすることにより、その背後に存在する大多数の児童・生徒に働きかけられること、また、中学校・高等学校の教員に対しては、卒業生のフォローアップという意味での有効性が期待される。

研修プログラムには、キャリア教育の必要性やその実践方法、キャリアカウンセリングを用いた生徒・児童への個別的な対応方法、大学におけるキャリア形成支援の実情といった内容について講義と実習を交えて実施している。

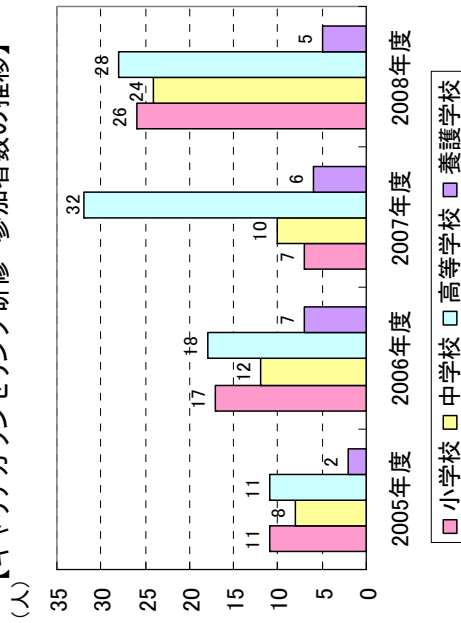
(例)大阪府の取組

大阪府では、高等学校のキャリア教育・職業教育の充実に向けた取組(大阪版「職業アセスメント・プログラム」の実施に当たり、自治体・教育委員会・専修学校団体、民間団体の連携の下、専修学校のリソース(教職以外の職業経験を持つ社会人、業界で使用される設備、就職支援のノウハウなど)を活用した公立・私立の高校1年生対象の事業が進められている。

具体的には、自己診断テストの実施、ワークショップにおける職業人との交流、専修学校における職業体験学習等の機会を体系的に提供することなどにより、高校生が多様な進路の中から自分の興味や資質、適性に基づく進路選択を行うことができるよう支援を行っている。

高校側としては、提供することが困難または調整が大変な点について専修学校が持つリソースを活用した教育ができ、また、専修学校側としては、職業意識の高い生徒の入学が期待される等、連携によるメリットが生まれてきている。

【キャリアカウンセリング研修 参加者数の推移】



大阪版「職業アセスメント・プログラム」の対象と目標

◇事業の対象

モデル高校10校(府立高校、私立高校)の高校1年生(約2,600名)

◇事業の目標

このプログラムを通じて、生徒が自己理解、自己肯定感、主体性、社会とのつながりへの意識、勉学等の意欲、などを高めること。

参考URL:

<http://www.osaka-senkaku.or.jp/education/index.html>

到達度評価(看護師)について

看護師については、看護基礎教育の修了時に修得しておく必要のある看護技術の項目と到達度を明確化するため、「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の指標が作成されている

■卒業時の到達度レベル

I：単独で実施できる II：看護師・教員の指導のもとで実施できる III：学内演習で実施できる IV：知識としてわかる

項目	技術の種類	卒業時の到達度
1. 環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I
	2 基本的なベッドメイキングができる	I
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II
2. 食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I
	2 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I
	3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I
	4 患者の栄養状態をアセスメントできる	II
	5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II
	6 患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	II
	7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II
	8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III
	9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV
	10 患者の食生活上の改善点がわかる	IV
∴	∴	∴
以下省略	以下省略	以下省略

全13項目で構成され、それぞれ細分化された技術の種類について到達度がIからIVの範囲で定義されている

(出典)厚生労働省 看護教育の内容と方法に関する検討会 参考資料より抜粋

到達度評価(ホテル業)について

一部の職種については、ジョブ・カードに対応するものとして、職種ごとに、学習者の評価のための「モデル評価シート」や、能力判定の目安表(評価ガイドライン)が作成されている

●評価ガイドライン「ホテル業」の例(一部抜粋)

能力ユニット	職務遂行のための基準	判定ガイドライン		
		A	B	
ホスピタリティの実践	日頃から笑顔で、心を込めた接客を実践している。	○いつも誠意笑顔でお客様に接していた ○お客様から好感を得るような対応であった	○概ね笑顔で、心を込めた接客を行っていた ○接客対応において、特段大きな問題行動はなかった	○お客様との接し方や表情にムラがあったり、注意されることがあった ○日常の業務遂行に支障をきたしていた
	お客様に対し丁寧な言葉遣いで対応している。	○いつも丁寧な言葉遣いで対応していた ○きびきびした対応であった	○おおむね丁寧な言葉遣いで対応していた ○不適切な言葉遣いをすることは稀で、実務上特段の支障はなかった	○言葉遣いにムラがあったり、言葉遣いについて注意されることがあった ○日常の業務遂行に支障をきたしていた
お荷物の預かり(クローク)	クロークルームの整理・整頓を決められたとおりにきちんと行っている。	○クロークルームの整理・整頓を行う意味を理解し、的確に対応していた ○クロークルームの整理・整頓に関する実務は正確・迅速だった	○クロークルームの整理・整頓についておおむね理解し、指示された通りの整理・整頓ができていた ○実務上特段の支障はなかった	○クロークルームの整理・整頓についての理解が不十分だった ○整理・整頓ができず、日常の業務遂行に支障をきたしていた
	預かりや返却の際にお客様を長時間お待たせしないよう、立ち動いている。	○預かりや返却の際、お客様を長時間お待たせしないよう、きびきびとした態度でスピーディに立ち動いていた ○品物のお預かり、返却に関する実務は正確・迅速だった	○預かりや返却の際、迅速な行動に努めていた ○実務上特段の支障はなかった	○預かりや返却の際の動き方についての理解が不十分だった ○お客様を長時間お待たせすることが何度あった
お客様のご案内(ベル)	お客様に対し、館内設備や非常口、冷暖房装置の使い方など必要事項を漏れなく伝達している。	○お客様に対して館内設備や非常口、冷暖房装置の使い方など必要事項を常に正確に伝達していた ○お客様からの質問にも的確に回答できていた	○お客様に対して館内設備や非常口、冷暖房装置の使い方など必要事項をきちんと伝達していた ○実務上特段の支障はなかった	○設備等についての理解が不十分だった ○誤った情報をお客様に伝えることが何度あり、支障をきたしていた
	お客様からの要望等は、メモするなどして正確・確実に関係者に伝達している。	○お客様からの要望等は、いつもメモするなどして正確・確実に関係者に伝達していた ○業務は正確・迅速だった	○お客様からの要望等は、失念することなく関係者に伝達していた ○実務上特段の支障はなかった	○お客様からの要望等を関係者に伝達しないことが何度あった ○日常の業務遂行に支障をきたしていた
	困っていらっしゃるお客様に積極的に声をかけている。	○いつもまわりに気を配り、困っていらっしゃるお客様には自分から積極的に声をかけていた	○困っていらっしゃるお客様にはおおむね積極的に声をかけていた	○困っていらっしゃるお客様に声をかけないことが何度あった

A: 常にできている B: 大体できている C: 評価しない

(出典) 中央職業能力開発協会 モデル評価シート「ホテル業」及び判定目安表(評価ガイドライン)「ホテルサービス」より抜粋

到達度評価について(大学の例)

例えば、教員養成の分野においては、求められる能力を可視化したプロファイルシートや、多視点評価及び面接指導の活用等により、学生の教育実践力を育成する取組が実施されている

2006年度入学生用 目標参照シート (B領域)主専攻領域【言語教育専攻(英語教育コース)】

階層1	階層2	階層3	質問項目	階層4	
教師力10の軸	階層2	英語教師に求められる教師力	授業科目名	英語科教育課程	英米文化の交流と理解
				第二言語習得	英米文化の交流と理解
				英語運用能力(聞く・話す)	英米文化の交流と理解
				英語運用能力(読む・書く)	英米文化の交流と理解
				英米文学	英米文化の交流と理解
				英語史	英米文化の交流と理解
				英語学	英米文化の交流と理解
				英語科教育	英米文化の交流と理解
				英語科教材分析力	英米文化の交流と理解
				英語科授業構想力	英米文化の交流と理解
教育実践力	階層2	英語教師に求められる教師力	授業科目名	英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
対人関係力	階層2	英語教師に求められる教師力	授業科目名	英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
自己深化力	階層2	英語教師に求められる教師力	授業科目名	英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	
				英米文化の交流と理解	

(出典) 中央教育審議会教員(第3回)高岡委員提出資料より抜粋

到達度評価について(専門学校の例)

例えば、理学療法士を目指す専門学校では、臨床実習の評価において、実習先の指導者が、「専門職としての基盤、資質、適性、心得」「治療の実践」等に関する到達度を評価している

札幌リハビリテーション専門学校 理学療法士科(4年課程) 臨床実習Ⅱ・Ⅲ(4年次)の評価表

Ⅰ 学ぶ姿勢、社会人としての資質

	S	A	B	C	D
1 時間等、約束を守ることができる。					
2 身だしなみや言葉遣いが適切である。					
3 礼儀をわきままえている。挨拶ができる。					
4 報告・連絡・相談が過不足なく行える。					
5 その場の状況に応じた適切な判断と行動が素早くできる。					
6 素直に聴ける。聞き入れることができる。					
7 指導されたことをその後の行動に反映させることができる。					
8 自分の意見を明確に述べるることができる。					
9 書面での適切な記録と報告ができる。					
10 自発的に行動することができる。					
11 「知りたい」という意欲が感じられる(知的好奇心)。					
12 「やってみよう」という熱意が感じられる(行動面)。					
学生自己評価	指導者のコメント				

Ⅱ 専門職としての基盤、資質、適性、心得

	S	A	B	C	D
1 守秘義務を果たすことができる。					
2 専門職をめざす学生として節度をもって接することができる。					
3 医学的・専門的知識に基づいた観察をすることができる。					
4 有資格者の考え方や、言動を学びとる姿勢で観察をすることができる。					
5 専門用語を適切に使用して記録をすることができる。					
6 リスク管理をすることができる。					
7 課題遂行の手段と優先順位を適切に判断することができる。					
8 全体を俯瞰し、何をすべきなのか学術的に捉えることができる。					
学生自己評価	指導者のコメント				

Ⅲ 評価の実践

	S	A	B	C	D
1 カルテ等のデータから必要な情報を収集することができる。					
2 他部門や関係者から必要な情報を収集することができる。					
3 対象者本人に実施する評価項目を過不足なく選定することができる。					
4 選定した項目の実施計画を適切に立てることができる。					
5 評価計画に関する根拠を説明することができる。					
6 評価の進行に伴って計画を修正することができる。					
7 インフォームド・コンセントを適切に行うことができる。					
8 実施項目を適切な期間・時間で実施することができる。 <small>※精神障害・発達障害領域は評定除外可</small>					
9 実施項目を規定の方法で実施することができる。 <small>※精神障害・発達障害領域は評定除外可</small>					
10 実施方法を状況に合わせて変更することができる。					
学生自己評価	指導者のコメント				

Ⅳ 思考・判断

	S	A	B	C	D
1 得られた情報やデータを整理し、考察することができる。					
2 得られた情報やデータを関連付けて考察することができる。					
3 対象者の全体像(ICF等)をつかむことができる。					
4 阻害因子(問題点)や促進因子(利点)を把握することができる。					
5 解決すべき課題を把握することができる。					
6 妥当性のある治療目標を設定することができる。					
7 治療目標を達成するために必要である詳細な治療プログラム(頻度・所要時間・場面設定・使用用具等)を立案することができる。					
8 治療経過に応じて、治療計画を適切に変更・修正することができる。					
9 実施した治療の経過や結果の妥当性を検証することができる。					
学生自己評価	指導者のコメント				

V 治療の実践 (type A)

	S	A	B	C	D
1 治療についてインフォームド・コンセントを適切に行うことができる。					
2 自己の立案した治療計画に沿って、適切に治療を実施することができる。					
3 対象者の状態に即して、治療方法等を適切に変化させることができる。					

V 治療の実践 (type B)

	S	A	B	C	D
1 指導者の指示通りに治療を実施することができる。					
2 治療の体験(見学も含む)を通して対象者の状態と治療内容を結びつけられる。					
3 自己の体格(身長、手の大きさ、筋力等)を考慮して工夫し、指導された治療内容を再現することができる。					

学生自己評価

指導者のコメント

※ 太枠内は、臨床実務経験4年目以降の指導者が記入。
※ 実習終了時点の到達度を次の基準で評価。

S	できる、見守りできる。
A	助言により、到達した。
B	助言と指導により、到達した。
C	改善傾向はあるが、到達しない。
D	できない、改善しない。

(出典)

札幌リハビリテーション専門学校より情報提供